

書店さまへ福音館からのみみよりニュース

7月

ふくみみ

fukumimi
2025.7 No.166

福音館書店販売部発行



若葉がまぶしい季節になりました。これから夏に向けて紹介するのは、心躍る写真絵本や人気シリーズの最新作、そして平和に思いをはせる作品です。ぜひごらんください。



みてみて!

こにしたかし 写真 / たにかわしんたろう 詩
小西貴士 写真 / 谷川俊太郎 詩

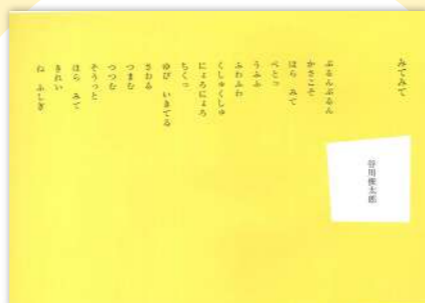
本体価格：1300円 サイズ：27×20センチ
頁数：32 対象年齢：4才から
シリーズ名：日本傑作絵本
配本パターン：A 配本日：7月2日

7月の新刊

子どもたちは毎日ステキな発見をして、だれかと共有したい。子どもの手が語るセンス・オブ・ワンダーの写真絵本。巻末にもの名が掲載されています。



編集担当者より
子どもたちは、毎日ステキな発見をしています。そんな時、必ず言うのは「みてみて!」。周りの人とその驚きや喜びを共有したいからだと思います。おもしろいもの、不思議なもの、小さいもの、きれいなもの、ビックリするもの。見つめるものには、子どもの個性が表れます。長年、保育者として、森の案内人として、子どもたちに寄り添い、活動をしてきた小西貴士さんは、子どもたちの「みてみて!」を浴びるように経験し、その一瞬をカメラに収めてきました。そんな何十年もの日記のような写真から、厳選した子どもの手と発見したものの写真。その写真を見た谷川俊太郎さんから詩が1編生まれました。愛おしい写真と詩で構成された喜びに満ちた写真絵本をお楽しみください。



谷川さんが「よい写真だね、言葉はいらないね」とおっしゃって、写真に言葉を添えるのではなく、写真を見ながら詩を作りました。

福音館書店のWEBマガジン

ともものま

が4月1日にオープン!

子どもとの日々は、毎日がにぎやかであわただしい! どんどん成長する子どもに、刻々と変化する子育て環境。楽しいことと同じくらい、不安や焦りを感じることもありますよね。「ともものま」は、手探りで進むあなたの「友」になって、「お茶の間」でほっと一息つくような時間をお届けする、福音館書店のWebマガジンです。一緒にいる時間が、子どもはもちろん、大人ものびのびと楽しめるものであってほしい。そんな思いを込めて、絵本・読みものや子育ての話題を中心に、日々の暮らしが楽しく、気持ちが少し楽になるような情報をお届けしていきます。

ともものま 編集企画室より

手から手へ 松居直の社内講義録

第1回「こどものとも」創刊のころ①

記事の一部をご紹介します

絵本の選びかた

基本編 | 絵本選びのヒントになる4つのこと

絵本Q&A

Q 同じ本ばかり読んでほしいのはなぜ?

インタビュー・絵本誕生のひみつ

ぐりとぐらが生まれた日① 中川李枝子さん

手作りおもちゃ紹介「ゆうべのおもちゃ」

堀内紅子さんによるおもちゃの紹介エッセイ

親の知らない子どもの時間

子どもと過ごす時間を大切に思っても、ずっといっしょ、というわけにはいきません。入園すると、子どもは親の手を離れ、園で多くの時間を過ごすようになります。わかってはいるようで、じつはよく知らない「子どもの園生活」。この連載では、大阪府堺市の「おとりの森こども園」で園長を務める松本崇史さんの目を通して、子どもたちの日々を覗いていきます。

子育てエッセイ漫画「母の気も知らぬきみ」



母・父・娘 3人家族の楽しくてドタバタな日々をつづる子育てエッセイ漫画。Instagramでイラストや子育て日記を発信しているyasuco (@yasuco)さんの描き下ろしで、「あるある」と共感しながら、クスクスと笑える時間をお届けします。



<https://www.tomonoma.fukuinkan.co.jp/>



お問い合わせ先
☎113-8686 東京都文京区本駒込6-6-3
FAX 03-3942-7950
株式会社福音館書店 販売部ニュース係
*掲載している新刊の刊行日・表紙画像・頁数は変更する場合がございます。

WEBから商品をご注文いただけるようになりました
<https://www.bookinter.intage.jp/intagesystem/Store/>
(Book インタラクティブ)
●書店情報をご登録頂ければ無料でご利用頂けます。
●HP上で在庫確認及び発注が可能です。 ●注番号の付与も可能です。

販売部のX/Instagram
[@fukuinkanhanbai](https://www.instagram.com/fukuinkanhanbai)



7月の新刊 守れ野生のロボット

ピーター・ブラウン 作・絵 / 前沢明枝 訳
本体価格：2100円 サイズ：22×15センチ 頁数：296
対象年齢：小学中学年～ シリーズ名：世界傑作童話
配本パターン：D 配本日：7月9日

毒潮をとめるため、ひとり海をゆくロズ。大切な仲間、故郷、そして海を守ることができるでしょうか？ シリーズ第3弾。



2025年2月に映画化された話題のシリーズに最新刊が登場 守れロズ！ 故郷を、大切な仲間たちを！

読者の声

●この本は、とってもわくわくドキドキして、でもなんか心があたたかくなるような本でした。最初は感情も心もなかったロズが、最後には森のみんな、そしてキラリを守るために他のロボットにいていこうするの、とっても感動しました！めっちゃおもしろくて楽しかったです！

●6歳の娘に読み聞かせ、クライマックスでは親も一緒に泣きました。ひとつひとつの章が短くて、時間のない時でも区切りながら、少しずつ読み進めることができます。いいです。原作では続編があるので、今から翻訳を待ち望んでいます。



43カ国で初登場1位！大ヒット映画「野生の島のロズ」の原作本



戦地に行った息子。その写真を残す母の思い



7月の新刊 一郎くんの写真

木原育子 文 / 沢野ひとし 絵
本体価格：1300円 サイズ：26×20センチ
頁数：40 対象年齢：小学中学年から
シリーズ名：たくさんのふしぎ傑作集
配本パターン：C 配本日：7月2日

「一郎君へ」と書かれた日の丸の旗。その持ち主を探して、新聞記者が静岡の町を走り回る。彼女が見つけた母の思いとは。

編集担当者より

この絵本は、中日新聞・東京新聞朝刊の連載記事「さまよう日章旗」(2014年8月15日〜8月23日)から生まれました。取材班の一員の木原育子さんに、編集部から、読者の子どもたちに3つこのことを伝えられる、と原稿を依頼しました。一つめは、新聞記者の仕事について。二つめは、自分が死んでもなお、我が子が生きた証をこの世に残そうとする、母親の思いについて。三つめは、一郎くんの写真をお母さんが大切にしまっていたように、私たちの周りには、誰かに開けられるのを待っている引き出しや箱が無数にあって、私たちはまだ、そういうものと隣り合わせに暮らしているのではないかとということ。この重いテーマの原稿を、画家の沢野ひとしさんも真剣に読み込んで、絵本に仕上げてくれました。



話題書として全国ですてきな店頭展開が続々!! ありがとうございます



啓文堂書店 吉祥寺店様 (東京都)



TSUTAYA レイクタウン様 (埼玉県)

ちょっとじゃなくこわいかも……

もうちょっとこわいメモ

北野勇作 作 / 森本晃司 画
本体価格：1300円 サイズ：19×14センチ
頁数：148 対象年齢：小学中学年から
シリーズ名：創作童話
配本パターン：B 配本日：7月2日

ぼくはこわがりなのに、こわいものを見たり、きいたりしてしまう。ふしぎでおもしろくて、ぞっとする4つのお話。『ちよっとこわいメモ』の姉妹編。



読者の声

こわいお話も面白かったですが、エピソードの間にメモ風のページがはさまっているのが可愛いし、紙の本ならではの仕掛けで気に入っています。まだまだ謎や続きがありそうな世界観なので続編を期待しています。楽しい時間をありがとうございます。

「えっ、本物のメモが挟まってる!?!」

ドキッとさせるメモの仕掛けは新刊にも付いています

あわせておすすめ

戦後80年に届けたい作品



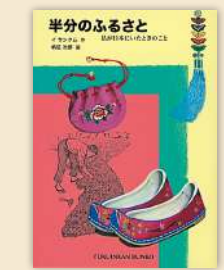
第二次大戦のさなか、外国生まれの小人たちを愛し続ける少女。



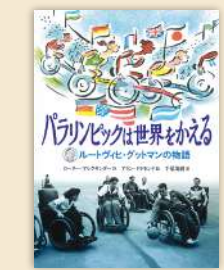
太平洋戦争末期の沖縄が舞台、戦時中の疎開船である対馬丸の悲劇を扱っています。



ドイツ、キューバ、シリア。それぞれの故郷を追われた3人の子どもの物語が、時を超えて響き合う。



韓国と日本、2つの故郷のあいだで揺れる想い。



第二次世界大戦で負傷した人々に生きる希望を取り戻させたいーパラリンピックを生んだ医師の感動の伝記。



王様とキツネの大砲くらべがエスカレート。



いくつもの時代を越えて生きた蒸気機関車の物語。



原爆の開発から現在まで、原爆の全体像に迫る。